

# 決算審査特別委員会

第71号議案・令和元年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第72号議案・令和元年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月7日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長 高子秀明)は、9月9日及び10日の2日間にわたり審査を行いました。

その結果、第71号議案については、採決の結果、賛成少数で不認定とし、第72号議案については、全会一致で認定しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

## 一般会計

### 総務費

ろ、月350人以上の利用があったことから、一定数の需要があるものと考えている。

**〔質疑〕**市民バス中心市街地循環便について、これまでの試験運行を通して、今後どのように取り組んでいくのか伺う。

**〔答弁〕**平成30年10月の試験運行開始時は月の利用者が213人であったが、昨年は11月に新聞折り込みを活用し、無料の乗車券つきチラシを配布したこと

## 民生費

**〔質疑〕**高齢者タクシー利用助成事業については、65歳以上で要介護3以上の認定を受けた市民税非課税の方を対象に、タクシー料金の一部助成券を交付している。

近年、利用者数が伸び悩んでいると思われるが、どのように分析しているか伺う。

**〔答弁〕**高齢者タクシー利用助成券は、通院で利用されることが多いが、遠方になるとタクシーが使えないという声もあることから、この制度とは別に、白石市社会福祉協議会への委託事業である、高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業の移動支援サービスにて改善している。

市民の有償ボランティアであるささえ愛互助活動支援事業は、ドライバーの確保が難しいのが現状であるが、専用の車両を確保し、遠距離でも使用しやすくなったことから、利用は増えている状況である。

このように、二つの政策だけではなく、他の視点からも移動支援を支えていきたいと考えている。

**〔質疑〕**生活保護事業については援助困難なケースも増加傾向にあるとのことだが、相談体制はどのようになっているのか伺う。

**〔答弁〕**本市の生活保護事業については、不安定な雇用情勢などにより自立に至らないケースも増え、必要とする援助も多種多様化し、援助困難なケースも年々増加傾向にある。

相談体制については、直接相談にあたるケースワーカーの資質向上を図るため、各種研修会などへ積極的に参加させるなど、引き続き本制度の適切な実施と運営に努めたいと考えている。

## 商工費

**〔質疑〕**東北観光復興対策交付金を活用した事業として昨年度実施した、白石城ステイ事業の今後の取り組みについて伺う。

**〔答弁〕**東北運輸局との連携事業として国内外の有識者をはじめ、海外メディアによるモニターツアーを行なった事業であるが、木造で復元されたお城で宿泊体験を行う国内初の事業として、新聞、テレビなどマスメディアで数多く取り上げられ、宣伝効果は十分あったと考える。

将来的には、白石城への宿泊体験や文化体験をメインとしたプレミアムな旅行商品として、旅行エージェントによるハイクラスな外国人旅行者の増加を目指す予定であったが、新型コロナウイルス感染症により、海外からの観光客誘致ができない状況であることから、今後の状況に応じて慎重に進めていきたいと考えている。

## 土木費

**〔質疑〕**市営住宅について、老朽化が顕著になってきているようだが、今後どのように維持管理を進めていくのか伺う。

**〔答弁〕**現在517戸ある市営住宅のうち、退去後に募集を行わ